

～旧約聖書を読んで感じること～ (49) 士師としてのサムエル

イスラエルにとって一大事件が起きました。それは神の箱、即ち、至聖所に安置していた「契約の箱」が奪われてしまったのです。その経緯がなんとも言いようのないものです。



イスラエルがペリシテに向かって出撃した時、イスラエル軍は打ち負かされてしまいました。その時イスラエルの長老たちは「契約の箱」を陣営に置くことによって、神の力で勝利できると考え、祭司エリに願い、「箱」をシロから陣地に運び込みました。「箱」にエリの息子達も同行し、イスラエルの陣地は大歓声を上げ、勇んだのです。ペリシテは恐れ、一層激しく戦い、イスラエルは大敗を喫しました。「箱」は奪われ、エリの息子たちも死にました。逃げ帰った兵士は戦禍を祭司エリに伝えると、エリは席からあおむけに落ち、首を折って死にました。

一方ペリシテは勝利に喜び、「箱」をペリシテのアシウドにあるダゴンの神殿に運び入れたものの、彼らの神ダゴンはバラバラに壊れて倒れました。また、次々と人々が腫物などの災害に苦しみ、恐慌となりました。ペリシテ人は占いをして、「箱」をイスラエルに賠償の捧げ物と共に返還することになり、牛に曳かせて戻したのです。「箱」はペリシテとの国境に近いキルヤト・エアリムに移され、丘の上のアビナダブの家に運び、その息子を聖別し、箱を守らせることにしました。

「箱」が奪われた時、祭司エリが 98 歳で死にました。息子たちも死んでいますから、サムエルが祭司としてシロで務めを果たしていました。キルヤト・エアリムに安置されている「箱」に、サムエルは全く関心を示していません。サムエルは、ペリシテの脅威から救われるためには、民の間にある異教の神々を取り除き、ただ主にのみ仕えるように命じ、祈り続けました。20 年の間、イスラエルの人々は守られ、平和が続きました。サムエルは士師としてベテル、ギルガル、ミツパを巡回して、裁きを行いましたが、軍を率いて戦う士師ではありませんでした。

イスラエルにとって、更に重大な事件が起こるのです。それは民が、王を求めてきたのです。



ラマのサムエル J. Tissot

サムエルは年寄り、イスラエルのために裁きを行う者として息子たちを任命した。しかし、この息子たちは父の道を歩まず、不正な利益を求め、賄賂を取って裁きを曲げた。イスラエルの長老は全員集まり、ラマのサムエルのもとに来て、彼に申し入れた。「あなたは既に年を取られ、息子たちはあなたの道を歩んでいません。今こそ、ほかのすべての国々のように、我々のために裁きを行う王を立ててください。」裁きを行う王を与えよとの彼らの言い分は、サムエルの目には悪と映った。そこでサムエルは主に祈った。主はサムエルに言われた。「民があなたに言うままに、彼らの声に従うがよい。彼らが退けたのはあなたではない。彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ。」(サム上 8:1-7)

サムエルの目には王を持つことは悪と映りました。王は、若者を徴兵、娘を徴用、土地、財産を徴収するのだ、民は、王の奴隷となるのだと警告しても、民はサムエルの声に聞き従おうとはしません。イスラエルの民は、神を軽んじ、目に見える「契約の箱」にご利益があると思って、担ぎ出すようなことをしました。また、他国と同じように、強大な王を持ち、軍事力により他国との緊張を解決しようと願ったのです。サムエルは年寄り、また、息子達への信仰の継承にも失敗しました。「彼らの声に従い、彼らに王を立てなさい。」(サム上 8:22)との主の言葉を受けて、サムエルは民の求めに応じました。